

# 人口減少経済におけるアウトソーシングとイノベーション

会計研究科 会計専門職専攻

○准教授 しみず たかのり  
清水 隆則

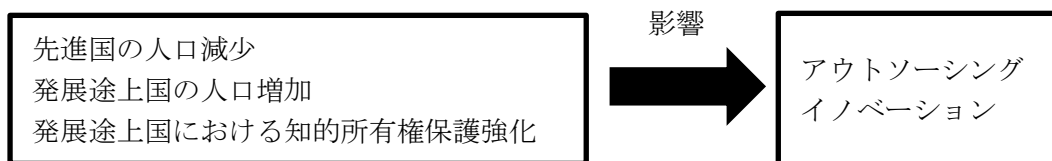
## キーワード

プロダクト・サイクル、アウトソーシング、イノベーション

## 研究概要

情報伝達技術の発達などにより、生産工程の全てを1カ所に集中させる必要性は低下し、生産工程の一部を別の企業に委託するアウトソーシングの重要性が増加している。同時に、輸送費や関税の低下により、国境を越えたアウトソーシング（国際的なアウトソーシング）の重要性もますます拡大している。日本経済は現在人口減少の局面を迎え、多くの企業が労働力不足に直面している。これにより、生産活動が停滞し、経済成長率の低下につながるであろう。このような状況を打開する一つの方策が発展途上国に生産工程の一部を移転する国際的なアウトソーシングである。発展途上国では多くの国が高い人口成長率を維持している（総務省統計局『世界の統計2017』によれば、先進国の2010～2015年の人口1000人当たりの年平均出生率は11.1、年平均死亡率は10.0である。一方、発展途上国では同期間の人口1000人当たりの年平均出生率は21.4、年平均死亡率は7.4である）。アウトソーシングによって労働力の減少を補うことができれば、経済活動の低下を抑えることができる。一方で、もともと知的所有権があまり保護されていなかった発展途上国において知的所有権の保護を強化する動きが進んでいる。これらの要素がアウトソーシングとイノベーションに与える効果を調べる。

世界経済における3つの動向



## アピールポイント

本研究の結果、先進国の人口減少、発展途上国の人口増加、発展途上国における知的所有権保護強化が同時に起こったとき、先進国から発展途上国へのアウトソーシングを増加させることが分かった。したがって、近年拡大を続ける先進国から発展途上国への国際的なアウトソーシングの原因を説明することができるであろう。しかしながら、先進国の人口減少と発展途上国の人口増加のみが起こった場合には、アウトソーシングが増加するとは限らない。さらに、先進国の人口減少と発展途上国の人口増加の大きさが同じ場合は、イノベーションは減少する。したがって、アウトソーシングとイノベーションが同時に増加するためには、発展途上国における知的所有権保護の強化が重要な役割を果たすことが本研究の結果明らかとなった。

